

## 令和3年度 事業報告

本学園の主要財源は学生生徒等納付金収入、及び国・地方公共団体からの補助金収入だが、学生生徒等納付金収入の安定化には、確実な学生確保が重要となっている。また、学生生徒等納付金収入以外に、各種補助金や外部資金の導入も重要であると考え、受託研究事業、文部科学省の競争的研究費、教育研究振興募金事業等の外部資金の獲得に積極的に取り組み、複数の外部資金を獲得した。

北海道情報大学（以下「HIU」という。）においては、近年のAIやICTに関する社会的な関心の高まりと本学の高度ITプロフェッショナル人材育成に関する取り組みが認知され、令和3年度も入学志願が順調に推移し、令和4年4月の入学者数は定員420名を確保し、開学以来最高の在籍者数を獲得することができた。

通信教育部においても、教育センターとの連携推進により正科生Bの入学者数は好調に推移した。また、オンライン学習環境のDX化により社会人の正科生A等の入学者も好調に推移した。

北海道情報専門学校（以下「HCS」という。）においては、情報系分野の人気向上に加え、「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」などの各実績が認知され、入学者数は定員360名を確保することができた。また、ICT教育の伝統と実績を有する専門学校として、「産・学・研」連携による最新技術・最先端の教育により、情報処理技術者試験で全道一位の合格実績を上げることができた。

就職実績はHIUが97.0%、HCSが97.4%と、両校ともに高い就職率となった。

令和3年度に本学園が実施した主な事業は、以下のとおりである。

### (1) HIU

- ① 建学の理念である「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を継承しつつ、「Quality First」をミッションとして策定した「HIU Vision2025」を反映した「第3期中期目標・中期計画(2021年度～2025年度)」の初年度として、2021年度計画を確実に推進した。
- ② 新型コロナ禍においては、遠隔授業と対面授業の良いところをミックスしたハイブリッド授業や、感染拡大状況に合わせて対面と遠隔の授業の割合をフレキシブルに変えるなどして、理解度やニーズに合わせた学習者本位の授業を実現するとともに、教室設備や教育環境の充実を図った。その結果、学生満足度調査において、「講義形態・内容」に対する満足度が、前回調査時よりも増加した。
- ③ 新型コロナ禍で例年通りに実施できなかった学校行事については、中止またはオンラインへの代替え策を講じて実施した。中止した行事は、海外留学(アメリカ、中国、マレーシア)等である。また、大学祭(蒼天祭)、体育祭、一部の海外留学(タイ・ラジャマンガラ工科大学)、メディアデザイン展(卒業作品発表会)、保護者と教員との懇談会等についてはオンラインで開催した。

- ④ 教室の AV 設備の最新鋭化や新入生全員へのタブレット PC の導入(貸与)、コンピュータ実習室の整備など、学内の ICT 環境をさらに充実させ、最先端の「情報」を学ぶ大学として他大学との差別化を図った。
- ⑤ 入試広報活動においては、Web オープンキャンパスやオンライン相談会などの手段を活用し、H I Uらしさをアピールしながら広報するとともに、感染縮小時には高校訪問などを集中して行うようにして、オンラインと対面のハイブリッドでの広報活動を展開した。
- また、出願方式をインターネット出願に全面的に移行して、志願者の利便性向上をアピールした。
- その結果、入学者数は466名(入学定員+46名)を獲得し、在籍者数も1,818名(昨年比+37名)と開学以来最高となった。
- ⑥ 医療情報学科の志願増のために今年度新たに設けた「医療情報エンジニアコース」で、IT 志向の学生の取り込みを図った。(医療情報学科 入学者78名(昨年比+11名))
- また、総合型選抜(旧 AO 入試)に新設した「起業・スタートアップ人材育成枠」においては、思惑通りに優秀な学生14名のエントリーに結び付いた。
- ⑦ 通信教育部においては、これまで進めてきた授業や試験のオンライン化を一層進めるとともに、eラーニング教材の充実を図り、DXの推進で他大学との差別化を図っている。そうした効果もあり、昨年度以上に入学者が増加している。(正科生A等秋入学：452名(昨年比+90名)、正科生A等春入学：612名(昨年比：+197名)、正科生B入学：659名(昨年比+0名))
- ⑧ 第3期校舎保全5ヵ年計画の初年度として、松尾記念館及び通信教育棟の屋上防水工事や街灯の更新などを行った。
- また、第1学生駐車場の舗装改修及び中庭プラザの整備などの外構工事の他、教室の机、椅子、体育館のバスケットゴール更新など、大学全体での教育環境の整備を行った。
- ⑨ 医療情報学部及び健康情報科学研究センターがコンソーシアムメンバーとして参画する、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「研究課題：食を通じた健康システムの確立による健康寿命の延伸への貢献」(2018年度～2022年度)において、食と健康の関係性解明、並びに食の機能性評価「食の臨床試験」などの研究を推進した。本取組みを通し、臨床試験に参加した地域住民への健康アドバイスや研究成果の一部をホームページや紙面媒体などで公開することによりH I Uの研究活動についてアピールを行った。
- ⑩ 医療情報学部が持つ資源を最大限に活用して、国内でも早い7月から新型コロナワクチンの大学拠点接種(職域接種)を実施し、3回目の接種も3月に実施した。接種対象者は江別市小中学校教職員等にも広げ、H I Uには医療の教育研究環境が充実していることをアピールするとともに、地域貢献につなげることもできた。

## (2) HCS

- ① 募集活動では、『Quality First』を念頭に、安定した学生確保を実現するために、高い実績をあげている「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」を広報の三本柱として展開した。
- ② ビジネス系学科の募集を停止し、システム系とゲーム系の学科に募集を集中させた結果、入学者数は384名(入学定員+24名)を獲得した。また、在籍者数も978名(昨年比+50名)と1,000名に迫る人数となった。
- ③ 資格試験において情報セキュリティ分野の難関国家試験である「情報処理安全確保支援士試験」では、全国の大学・専門学校で最多となる20名が合格した。また、システム開発の上流工程を主導する人材の証である「システムアーキテクト」では、全国の専門学校で唯一1名の合格者を輩出した。さらに、高度IT人材としての証である「応用情報技術者試験」においても全国の専門学校で最多となる40名が合格した。「基本情報技術者試験」に至っては、大量512名の合格で大学も含めた他の学校を凌駕する結果を残した。この卓越した資格取得実績で広報を展開した。
- ④ 新型コロナ禍での就職活動は、企業によるオンライン説明会・採用面接等を開催誘導することにより、大学併修科(4年制)は11月末に100%内定を達成した。HCS全体の就職実績としては、97.4%の内定率を達成した。
- ⑤ 技術レベルの評価、及び人間的な成長の観点から外部コンテストに積極的にチャレンジし、以下の実績を上げた。
  - ・起業家甲子園 2021 北海道大会(主催：北海道総合通信局)で2チームが企業賞を受賞
  - ・セキュリティコンテスト「MBSD Cybersecurity Challenges 2021」(主催：三井物産セキュアディレクション(株))で最終審査に出場
  - ・介護デジタルハッカソン 2021(主催：(一社)さっぽろイノベーションラボ)で優秀賞と企業賞を受賞
  - ・ゲームクリエイター甲子園 2021(主催：ゲームクリエイターズギルド)で最終選考に残り4種類の賞を受賞
- ⑥ 第3期校舎保全5ヵ年計画の初年度として、3号館共用部・教室床改修工事を行うとともに、2号館2階及び3階の教室仕切り壁を可動式に変え、大教室化が可能な教室とした。また、クラス数の増加に対応するために、新たに2号館に教室を追加した。
- ⑦ オンラインでの授業や会議の増加に伴い、インターネット回線を増設し、合わせてセキュリティ機器も増強した。さらに3教室に最新パソコン143台の導入を行い、教育設備・教育環境整備を行った。

以 上